すこやかちゃん

陽大（はると）ちゃん（平成19年２月２日生）
両親＝飯嶋秀樹・祐美子さん〔足川〕
「何にでも興味津々、毎日楽しいんだぁ。
ほっぺのえくぼがかわいいでしょ♡」

晴輝（はるき）ちゃん（平成18年９月12日生）
両親＝伊藤宗弘・実恵子さん〔泉川〕
「静香姉ちゃんが作ったかぶとを
かぶってごっきげん！！」

匠眞（たくま）ちゃん（平成18年６月４日生）
両親＝向後浩・恵美子さん〔川口〕
「お祭り楽しかったよ。
来年もでたいなぁー」

＊すこやかちゃんを募集しています＊
掲載ご希望の方は、秘書広報課広報広聴班（〒289-2595旭市二の1920・☎62-8070）へ。
対象は、小学校入学前の幼児です。申込用紙は、保健センター、海上保健センター、飯岡保健センター、干潟保健センター、秘書広報課にあります。

紙上展示室 ―旭モノ語り― 第二十八回

落花生の碑

十一月十一日はピーナッツの日。落花生は一つの殻に二つの豆が並んでいることから、「一一」が二つ重なるこの日に決められたそう。そしていうまでもなく千葉県の特産品。生産量は全国一位、国内産の実に七割以上を占めます。千葉で生産が多い理由は二つ。一つは、栽培に適した土壌であること。二つ目は、初めて栽培が行われた伝統があることです。

この落花生ゆかりの人物が、鎌数村の金谷總蔵（一八四五～一八九二）です。名主の家に生まれた總蔵は、各地の地質や作物を研究し、新しい産業で貧しい村を救う方法を模索していました。そして、明治十年（一八七七年）、県の落花生奨励事業にいち早く名乗りをあげます。

はじめに、種子二升を譲り受け、二反の開墾地に栽培を試みました。試作は大成功、しかし自信をもって周りの農家に勧めるも、当時はまだ味になじみがなく、地上で咲き地下で実るのは奇異だとの反応。それでもあきらめず、熱心に普及を続け、種子や肥料を利息なしで提供したり、販路を開拓するなどし、特産品への基礎を築き上げました。鎌数の落花生は品質がよく、「本場物」と称され、多くの農家に富をもたらしたといいます。

明治一七年（一八八四年）、その功績が称えられ、報恩碑が地元の鎌数伊勢大神宮境内に建立されました。碑の題は「落花生」、高さは三メートルにも及びます。「干潟郷落花生記」と題された並木正韶（まさあき）（栗水（りっすい））による格調高い撰文は、見るものを圧倒します。台座には鎌数、入野、新町、琴田、米込、秋田、萬力の各村の発起人を先頭に、総勢百四十四名と三団体が刻まれています。

總蔵は、このときまだ三十九歳。そして、明治二十五年（一八九二年）に四十六歳の若さで亡くなりました。産業振興に尽くした短い生涯でした。

※参考文献「旭市史」

〔大原幽学記念館　猪野映里子〕

暮らしのカレンダー

3日(土)	文化の日 黒虎相撲（9:40～　袋太田神社）
11日(日)	ふるさとまつり・ひかた （10:00～　干潟中学校グラウンド）
23日(金)	勤労感謝の日 海上産業まつり （9:00～　海上コミュニティ運動公園）

編集後記

撮影もかねて地元の地区体育祭に行きました。撮影を進めていると役員さんから短距離走への出場のお誘いが…。競技に出るつもりはなかったのですが、せっかくなので出ることに。その気はないといいながら、無意識に一生懸命走ってしまうから不思議です。でもハリキリすぎには要注意。自分が思っている以上に体は若くありません。足がもつれて転倒！なんてことも…。

え？自分は大丈夫。そんな年じゃないって？私もそう思ってました。この日、転倒するまでは。（ま）

R100 PRINTED WITH SOY INK 古紙配合100％再生紙と環境にやさしい大豆油インキを使用しています。